

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会 議 名	令和7年度 【第1回足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和7年7月1日（火）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 5階 ホール
出席者	小谷 博子部会長 榮 幸世委員 小長井 亜希子委員 寺山 早苗委員 相澤 まり子委員 川松 佳緒里委員 相澤 政子委員 池村 愛委員 酒井 康年委員 飯田 登志恵委員 河野 正恵委員 中村 文香委員 石原 雅子委員 谷内 新哉委員 高橋 徹委員 関口 久恵オブザーバー（千住保健センター）
欠席者	なし
会議次第	1 開会 （1）障がい福祉センター所長挨拶 （2）委員紹介 （3）事務局紹介 （4）経過報告 2 議事 （1）部会長挨拶 （2）協議 3 事務連絡 4 閉会
資料	1 こども部会次第（裏面 席次） 2 令和7年度足立区自立支援協議会こども部会活動計画書 3 令和7年度自立支援協議会こども部会名簿
その他	公開状況：公開 傍聴：2人

様式第2号（第3条関係）

1 開会

【司会】

ただいまから令和7年度第1回足立区地域自立支援協議会こども部会を開催します。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

司会を務めます障がい福祉センター幼児療育係長の杉山です。協議に先立ちまして何点かご案内があります。

まず委嘱状ですが、本来ならば足立区長からお渡しするところ、協議時間を十分とるためにあらかじめ席上に配付しています。よろしくお願いします。

～ 資料確認 ～

自立支援協議会こども部会の内容は、後日ホームページに議事録を公開するため、録音させていただきます。また、本日の部会は公開しており、傍聴席を設けています。ご了承ください。

それでは、令和7年度第1回足立区地域自立支援協議会こども部会を開会します。はじめに、当センター所長高橋からご挨拶いたします。

（1）障がい福祉センター所長挨拶

【高橋委員（障がい福祉センター）】

4月から障がい福祉センターあしすと所長に着任しました高橋です。このこども部会は自立支援協議会の一部会で、障害者自立支援法に基づく機関となっています。

今年度のこども部会は2年間を一区切りとしたちょうど真ん中となります。有意義な協議を進めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

（2）委員紹介

【司会】

委員等の紹介に移ります。順に名前をお呼びします。

～ 部会長・新委員・委員紹介 ～

（3）事務局紹介

【司会】

続きまして事務局を紹介します。

～ 事務局紹介 ～

（4）経過報告

【司会】

経過報告を事務局の浅輪からいたします。

【浅輪（障がい福祉センター）】

前年度のこども部会の活動報告、今年度活動計画、また先日の本会議の報告を合わせてさせていただきます。すでにご案内とは思いますが、6年度は3回の部会を開催しました。主なテーマは各機関の活動内容の継続的な情報共有と、横の連携でした。横の連携を深めるために、委員の所属機関をお借りして2回目、3回目の部会を実施しました。その中で、様々な事業の情報共有や、「相談しやすい機関とは何か」「外国にルーツがある家庭を支援する立場からどんな風に取り組んでいるか」などのご議論いただきました。

7年度の重点課題は、さらに横の連携を深めることと、こども家庭庁ができた関係でこども・若者の意見を聴く機会を設けるとしました。次回、第2回は東京未来大学をお借りして、実際に学ばれている学生の中から、当事者や関係者の意見を聴く機会にしたいと考えています。第3回は、その意見を聴いて抽出された課題に対し、どのような取り組みができるのか、あるいはそれぞれ

でどんなことをしていくのか、といった深掘りができたらと考えています。

本会議は6月6日に実施しました。小澤会長が勇退され、社会事業大学の曾根会長が就任されました。新会長からは具体的な取り組みについてと、いつまでに誰がどんなことをするのか、次回の本会議で報告するという話がありました。部会長とも協議をし、こども部会ではこれまでのつながりをもとに、目的に叶うかたちで話し合いを進めるなかで、何かが生まれていくことを目指しましょうということで、今年度の計画に沿って進めていきます。以上です。

2 議事

(1) 協議

続きまして議事に入ります。小谷部会長、よろしくお願いします。

【酒井委員(うめだ・あけぼの学園)】

まず、質問をしてよいでしょうか。昨年度は出席することができず申し訳ありませんでした。今年度の重点課題も、連携を進め、若い人たちの意見を聴く機会を設定するということですが、昨年度の課題は何だったのか教えてほしいと思います。

【高橋委員(障がい福祉センター)】

この部会の目的は、共有を図ること。進め方として、やりたいことをやりながら、それぞれの機関が何をしているかお互いを知ることができているのではないかと思います。

【酒井委員(うめだ・あけぼの学園)】

連携による目的は何か。連携は何のためにやっているのか。その先の共通の課題を見つけるまで、課題の抽出や共有を図るまではできていないという認識でよいでしょうか。

【高橋委員(障がい福祉センター)】

共有を図る途中と考えます。

【小谷部会長(東京未来大学)】

小谷です。手探りの状況で進めています。部会長5年目になりますが、課題は年々変わります。未来大ではきょうだい児が増え、通信制高校に入る子も増えています。

今の大学3年生は小1で震災、中3でコロナ感染症、家族、世界の危機を経験した子たちが今大学生になっています。発達障がい児も増えているように思いますし、10人に一人がきょうだい児という状況です。今年度は「きょうだい児」の声を聴くことが大切と考え、今年度の重点課題としました。新しい委員の皆様からも課題を挙げていただければ良いと思います。

私は、児童養護施設のクリスマスビレッジとも関わっています。障がい関係だけではなく、社会的に弱い立場に置かれたこどもの意見も聴いていきたいと思います。こども家庭庁の方針に従って、10月に開催される2回目の会議では実際に若い人の声を聴くかたちで進めたいと考えます。よろしいでしょうか。

【酒井委員(うめだ・あけぼの学園)】

障がい福祉のカテゴリー、こどもの意思決定支援、乳幼児からの意思形成支援は、大人になってからではなく、小さい時から丁寧に積み上げることが必要です。隣に座っていいかどうか、おもちゃを取られて嫌だったよねと聴く。今答えられないから問わないではなく、将来のために聴いていく。小さい積み重ねが将来につながります。“兄弟姉妹の会”が全国組織にあり、職員から、活動しているが広げていくことについて相談され、年に3～4回、日曜祝日に実施してい

ます。課題を拾い、意見を聴く仕組みを区全体に広げていっていただきたい。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。ハートぽっぽEASTではいかがですか。

【相澤まりこ委員（ハートぽっぽEAST）】

肢体不自由児中心の事業所で、小学生から高校生が来ています。非言語のお子さんも多いです。意思決定や自己決定を促すためにおやつや活動用具、支援内容など様々な場面で選択肢の中から選んでもらっています。例えばおやつの際にプリンとゼリーのどちらかを選んでもらう。ゼリーを見ていたから“ゼリーがきつと好き”ということをしてしまいがちです。でも“ゼリーを見ていたけどプリンも好き”かもしれません。専門職は常にいる訳ではありません。それぞれのお子さんの意思確認をするためにも学校や保護者の方などから情報を収集しながら、お子さんと向きあっていきたいです。

先日のこども発達支援事業所ネットワークでも、意思確認の手段として、区内で同じツールを使えないものかという意見も出ていました。酒井委員からお話があったことの周知が必要と思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

不登校を調べたらきょうだい児だったことがあります。ねっとワーキングではいかがですか。

【川松委員（ねっとワーキング）】

きょうだい児は大きなテーマです。

ペアレントメンター事業で月1回グループ相談をしています。毎回テーマ設定をしています。障がいのあるこどもについての悩みが多く、きょうだい児をテーマにすると申し込みがない状況です。ケアをして

いかなければと思っています。東京都自閉症協会でもきょうだい児が大きなテーマになっています。プレス取材もありました。区職員にもきょうだい児がいて寄稿してもらいました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

肢体不自由児者父母の会はいかがですか。

【小長井委員（肢体不自由児者父母の会）】

20歳、高2、双子の男の子と女の子がいます。小さい時はいろいろ話をしてくれましたが、今は障がいのある子を見捨てています。何を考えているのかわからない。でも外に行くと車いすを押したがったりします。双子なので同じようにしたいのに、手のかかる子に目が行ってしまうので、授業参観に行かれなかったり、帰宅時家にいられなかったりしました。中学になると上の二人が部活で楽になりました。一番大変だったのは下の子が中学のころです。

不安なことは自分が亡くなった時、将来どうなるのかなと思います。自分や夫が亡くなる前に準備を整えておかないと、と考えてしまいます。

【小谷部会長（東京未来大学）】

肢体不自由児と知的障がい児とは違うと思います。親の会ではいかがですか。

【榮委員（足立区手をつなぐ親の会）】

小5の子は花畑学園、21歳の子は生活介護事業所の作業訓練型に通所して、2番目は20歳、4番目は小1です。今は小1の子のスケジュールが第一です。次男は、兄は特別なんだ、祖父母も兄には無限に買ってあげるのを知っているので、お兄ちゃんが欲しがっているといって高いレゴを買ってもらっていました。

都の育成会の学習会のテーマにもきょう

だいい児がありました。1番目は重度知的障がい、染色体異常、コミュニケーションの課題はあまりありません。2番目は健常児ですがコミュニケーション能力が低く生きづらいです。3番目は脳症、4番目は小1でコミュニケーション能力は高いです。私はこの能力の違いがキーに感じています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

実際に通っている花畑学園の様子はいかがですか。

【中村委員（都立花畑学園）】

娘さんたちとよく会います。2人とも笑顔が素敵です。

生徒は認知の幅も広いです。1年生は知的が33人、肢体は10人、近隣の特別支援学校の生徒は60～70人なので、半分位です。ことばでコミュニケーションをとる子、ICTの視線入力でコミュニケーションをとる子もいます。こどもたちの発信を見過ごさないようにしています。きょうだいい児について悩む親も多いですが、不登校、友だち関係、出掛けた時に物に当たるなどの話もあります。教員にもきょうだいい児が3人います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

千寿桜小ではいかがですか。

【池村委員（千寿桜小学校）】

通常級に知的・発達障がいの子が在籍していますが、幅は広いです。特性で漢字をすらすら読める子もいます。国語算数は能力別にクラス分けをしています。

固定級は18人在籍で担任は4人。通常級と固定級の横の連携は正直なくて、運動会の競技と社会科見学くらいです。一人で行って交流できる能力のある子はおらず、教員がついていかないと難しい状況です。

小さい時は廊下であいさつもありますが、大きくなるとほとんど交流がありません。

6歳のこどもが難病の知的障がい、4歳の子は健常児できょうだいい児の母です。自分自身も悩みがあり、今話を聞いて同じだと心強さを感じました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

大阪では重度の子も同じクラスというケースが多いようで、インクルーブ教育が進んでいます。幼稚園・保育園も小学校と一緒に、そのまま上がって同じ通常級に在籍するという話を聞いています。

【池村委員（千寿桜小学校）】

こどもは来年就学です。在住の千葉では交流が当たり前です。私は「理科社会が通常級の勉強で大丈夫ですか」と聞いたところ、先生の答えは、うーんまあ、、、でした。地方では通常級で支援の必要な子がいるのは当たり前なのだと思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

城北分園ではいかがですか。

【河野委員（北療育医療センター城北分園）】

特別支援学級にしようか支援員が多くいる特別支援学校にしようか、親は悩みながら区とも相談しています。花畑学園は場所が隣なので、児童指導員が中心となって、家族が見学をします。空間や人の配置などが充実していると感じます。

国際的には障がい児と健常児を分けて教育することは批判されています。障がい児と健常児がうまく交流し、通常学級・支援学級・支援学校、それぞれの良いところが活かせるといいと思います。健常の子で、障がい児と触れ合うことがないまま成長する子もいます。行事で地域の健常児と交流する機会がありますが、こども同士の交流には至

っていないと思います。こども同士の直接の交流ができるとよいと思います。

きょうだい児支援はできていません。ご家族の話を知ると、きょうだいと仲良く遊ぶ子、あまり関わりがない子もいます。障がい児がいない家庭でも、実際いろいろな家庭があると思います。

仲がよい家庭、そうでもない家庭であっても、家族が困ってなければいいかと思えます。

【小谷部会長（東京未来大学）】

保育園の状況はいかがですか。

【石原委員（あやせ保育園）】

こどもの権利をきちんと考えます。行動の前に赤ちゃんでも「おむつ変えますよ、変えますね」と聞きます。こどもが選んだかな、と園長が見ていて確認します。抱っこも後ろから抱き上げません。学年が上がっても同じ状況です。インクルーシブ保育園で、重度の子も知的の子も肢体の子もいます。

今までインクルーシブだったのに、学校に行ったらそれぞれの進路で形が崩れます。小さいときには“社会で見ていく”が就学で変わっていきます。大きくなって働くようになったとき、こどもたちの中にどれだけ残っているか、と思います。

医療的ケア児をあずかった時、「初めてきょうだいの行事に参加ができた」と保護者が涙を流していました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

幼稚園ではいかがですか。

【寺山委員（足立つくし幼稚園）】

障がいの受容や、自分の子に障がいがあることの受け入れについていつも考えます。幼稚園には加配ありません。重度の子は来ませんが、きょうだい児は来ます。

こどもの権利については、きょうだいに障がいがあると、小さいころからあなたが面倒を看なきゃと言われていました。その母にもサポートが必要です。あなたはあなた自身なんだよ、と伝えていきたいです。育てにくさからくる虐待につながらないように、こどもも親も支援します。権利をリスペクトしていく、尊重していくことが大切です。

幼稚園だと教え込んでしまいます。こどもが育っていくような支援とは、何をやってもいいよ、いいよと、自主性を尊重するあまり自由にさせることは違います。お話ししよう、口で伝えればいいんだよと、そのあたりが難しいです。

コロナ禍での支援について、ネットでの情報過多による混乱はまだあり、コロナウイルス感染症の影響がまだあります。

【小谷部会長（東京未来大学）】

児童相談所ではいかがですか。

【飯田委員（足立児童相談所）】

養育困難、虐待、いろいろな子との関りがあります。中でも新生児の支援は難しい。特定妊婦は生まれた子の保護に関して、母は放したくない、しかしメンタルの母、養育者は他にいない、保護するかどうか、本当に判断が難しいです。新生児は弱い状態なので危険があるためいつも悩みます。SOSを出したらすぐに保護できるようにします。

先日、警察から身柄付き保護になった愛の手帳2度のお子さんについて、緊急に保護してくれるところを探すことになりましたが、預け先が見つからず、大変苦労しました。そうなる前に何か支援できないのかいつも悩みます。

あるケースでは、母が育てられないと家を出て、父が（養育は）無理と言って、警察

から保護要請のあった2歳と4歳で愛の手帳2度と3度の子がいました。夜中であつたため、一時的に保護所に入りましたが、保護所では看られないため、こちらも施設探しに難航しました。

【小谷部会長（東京未来大学）】

地域との連携はいかがですか。

【飯田委員（足立児童相談所）】

葛飾区に児童相談所ができたので、足立児童相談所は足立区と密に連携できるようになり、やりやすくなりました。足立児童相談所の中に足立区の分室もできたので情報共有もできています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

育てにくさの理由には、障がいも関係がありますか。

【飯田委員（足立児童相談所）】

多数の子に知的や発達等の特性があり、障がいに関係あるのではと思います。きょうだい児も、虐待の目撃等で児相に係るケースも多いです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

げんきではいかがですか。

【谷内委員（こども支援センターげんき支援管理課）】

4月に着任しました谷内です。げんきの教育相談課では、小中高生の教育に関する相談や不登校の相談を受けています。支援管理課は発達相談、就学相談、医療的ケア、特別支援学級の支援等を担当しています。

細かい支援内容までは話せませんが、肌で感じることは発達に特性のある子の相談数が増えているということです。つなぎ先がいっぱいで、どうつなげていくか、知的固定級が足りません。

コミュニケーションの教室の利用児は増

えましたが、適切な指導時間が取れているかが課題となっています。コロナ禍の影響による不登校、各家庭の生活様式の変化、時代の影響をこどもたちが受けているのか、区として数をどうさばいて支援していくのが課題です。

【小谷部会長（東京未来大学）】

民生委員の相澤委員はいかがですか。

【相澤政子委員（民生・児童委員）】

小中学校の校長と話すと、不登校の生徒はクラスに1割はいるそうです。知的障がいのある子もそうですが、保護者の支援が大変です。私は知的障がいのデイサービスに行っていますが、親が心の病気で入院もありかわいそうに思います。誰かに助けを求められなかったのかなと思います。

デイサービスでは花畑学園に迎えに行き、少しの時間預かって家に送ります。何かあったらすぐに連絡して、と話をしました。

児童館には長年勤めていました。家に帰れずふらふらとする子、ママが大好きで悪口は絶対に言わなかったです。

親も子も一人ひとりを見てあげることが大切だと思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

5歳児健診が始まりますが、足立区ではいかがでしょうか。

【関口オブザーバー（千住保健センター）】

5歳児健診は課題も多く実施していませんが、望ましい実施形態について検討することになっています。今日皆さんの話を聞いて、連携が大事と感じました。妊娠届で保健センターは関わりますが、聞き取りの際に不安を感じている方には子育てのサポートを案内し、健診の中で心配なことを話す方には療育を勧めています。親が認めたく

ない、もう少し様子を見たい、レッテルを貼
りたくないというときには、気持ちを聞き
取って継続相談とし、保護者に寄り添って
います。

小中学校対象に「SOS の出し方教育」を実
施していますが、今こども若者の自殺が増
えています。保健センターも発達に偏りの
ある方の相談を受けていますが、就職して
から生きづらさを感じて相談する方も増加
しています。就労支援、働き続けるための支
援先もあります。妊娠出産の相談先として
保健センターを利用してほしいと思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ここで休憩を取ります。休憩後は、次回の
こども部会で、学生に聴いてみたいことにつ
いて、うかがいたいと思います。

～ 休憩 ～

【小谷部会長（東京未来大学）】

ここからは、次回のこども部会で、きょう
だい児の学生に聴いてみたいことについて、
順にうかがっていきたいと思います。

【川松委員（ねっとワーキング）】

どのような思いで学科を選んだのか。親
に対して思っていること。親亡き後にどう
なるのか、親は準備してるよと言うが、本当
に準備しているのかなど、親に対しての心
配ごとについて本音を聴きたいです。

【相澤まり子委員（ハートぽっぽEAST）】

小さいときに、姉、兄のことが大好きだっ
たけど、大きくなって中学高校になった時
に外で友だちや知っている人と会った時に
その場から離れていき、母が心を痛めた話
を聞くことがあります。心の変化について
聴きたいです。

【飯田委員（足立児童相談所）】

親が仕事をしていて、きょうだい児に学

校を休ませてきょうだいの面倒を看させて
いるなど、ヤングケアラーになりやすい傾
向にあります。そのようなことについて聴
きたいです。

【谷内委員（こども支援センターげんき支
援管理課）】

行政の立場では、多子世帯やきょうだい
の中で、行政として支援が不足している
と思うものについて聴きたいです。特別支援
学級に優先で入れるなどはありませんが。

【池村委員（千寿桜小学校）】

上の子は障がいがあって、下の子は健常
です。異性間のきょうだい児で嫌と思った
こと、やりづらかったことについて、ま
た保護者から説明があったのか、いつどん
な状態で気づいたのか、など聴きたいです。

【関口オブザーバー（千住保健センター）】

生きてきた中で、言われて嬉しかったこ
と楽しかったことを聴きたいです。

【高橋委員（障がい福祉センター）】

そもそも、その子にマイナス的なことを
聴くのはいかなものかと思いました。

【榮委員（足立区手をつなぐ親の会）】

うちの子はバツサリ聞いてくる子なので、
気にしないかと思います。

【高橋委員（障がい福祉センター）】

それは保護者の視点でこども自身がどう
思っているかが大事ではないでしょうか。
自分だったら、今まで何が一番楽しかった
か、これからどういう風に生きていきたい
かを聴くかなと思いました。ダメージを与
えるかもしれませんが。

【杉山（障がい福祉センター・事務局）】

親がどう説明しているかによると思いま
す。

【榮委員（足立区手をつなぐ親の会）】

人前に出てくる時点で、プラス思考のこどもたちだと思います。

【石原委員（あやせ保育園）】

学生はポジティブ。自分の気持ちをどこにあげるか、対話か、ネットにあげるのか、本音はどこにあり、本当の悩みはどこに出すのかなど聴きたいです。

【中村委員（花畑学園）】

どんな仕事をしたいか、どんな夢をもっているか、何が大変でどんな支援が嬉しかったか、ネット上でどんなコミュニケーションをとっているかを聴きたいです。

【寺山委員（足立つくし幼稚園）】

困ったときに誰に相談するか、これからの支援について、希望を聴きたいです。

【榮委員（足立区手をつなぐ親の会）】

聴きたいことは特にはないです。次男から「何で産んだんだ」と聞かれたときは、「産まれたときには兄の障がいはわかってなかった」と言いました。

【河野委員（北療育医療センター・城北分園）】

嫌だったこと、良かったことを聴きたいです。

【酒井委員（うめだ・あけぼの学園）】

質問することでステレオタイプのレッテルを背負わせないかとためらいます。きょうだいとしては、きょうだいと自身との間で心理的な距離の変遷があると思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

8月9日にギャラクシティで「インクルーシブあくしょん！」というイベントが開催されます。本学の学生を中心に足立区の大学生がボランティアスタッフとして50名ほど参加予定です。私のゼミ生が一生懸命イベントの準備をしている理由は、ゼミ

の活動であるからであることはもちろんですが、自分自身が小さい時に病気で苦しんだ経験があったり、自分のきょうだいが病気を持っていたり、きょうだいに障がい児がいたりだったり、自分自身が苦しんだ経験を持っている分、子どもたちには同じような辛い経験をさせたくないという思いがあるからです。そして、学生は、新しい自分になりたいくて、こども心理学科に来ています。過去には、虐待を受けていた子や多子世帯の子もいて、ゼミで話してくれます。

親がなぜそのような態度を取ったのか？自分が悪かったからなのか？それとも、親側にもサポートがなくて、そうせざる得なかったのか？こども心理学科に入学して親子関係について学ぶことで心の整理ができ納得した上で、次の一步を踏み出すことができるのです。次回、大きなイベントの後に次回のこども部会がありますので、ぜひ若い人の声を皆様に聞いていただけたらと思います。

3 事務連絡

【司会】

小谷部会長、委員のみなさまありがとうございました。

会議議事録は、事務局で案を作成し、委員の皆様に後日お送りします。確認いただいたものをもとに修正し、足立区ホームページに掲載させていただきます。

第2回こども部会は、10月22日、午前を予定しています。詳細は後日案内させていただきます。事務連絡は以上です。

4 閉会

【司会】

以上をもちまして、令和7年度第1回足立区地域自立支援協議会こども部会を終了いたします。ありがとうございました。